

京大解剖！



「京大生は変人ばかり」「京大生は遊んでばかりいる」「イカ京」…。京大生のイメージはこんなところであろう。だが、実際どうなのだろうか？ この記事では、102人の読者へのアンケートを基に、京大生の真の姿に迫る。

また、その京大生を教える先生方は、京大生をどう見て、どう感じ、そして何を望んでいるのか。二人の先生にインタビューし、アンケートの結果の分析をはじめ、さまざまなお話を伺った。

アンケート結果、先生へのインタビュー共に、非常に興味深いものとなっている。皆さんがこれから京大生として生きていく上での指針となれば幸いである。

(ペー)

※アンケート内容について

質問1は、「京大生全般を京大生以外の人と比較し、各項目ごとに直感で評価してください。回答は『5：甚だしい⇄1：そうではない』という基準で、1～5の数字で答えください」というものである。従って、平均値が高ければ高いほど京大生の特徴を言い表した言葉となる。

質問2は『『性格』『能力』『外面』の3分野について、京大生のよいところ、悪いところをお書きください』という自由記述形式のもので、読者からの広い意見を募った。これについては文章中に太字で表している。

大澤真幸先生

おおさわ まさち…人間・環境学研究科助教授。社会学専攻。1958年長野県松本市生まれ。東京大学を卒業後、東京大学や千葉大学で教鞭をとった後、京都大学助教授となる。今回のインタビューでも、「東と西を知る人間」という立場から京大生を分析していただいた。なお、去年のらいふすてーじ4月号「ACADE見IC」にも登場し、京大生について熱く語ってくださった。



京大生を一言で表すと…「おとなしいマイペース」

徳永正直先生

とくなが まさなお…教育学部非常勤講師。ドイツ教育学専攻。1952年愛媛県新居浜市生まれ。京都大学を卒業後、大阪成蹊女子短期大学や大阪樟蔭女子大学などで教員養成に従事。1999年から京大の非常勤講師に。京大のOBとして、また教育者としての立場から今の京大生を分析していただいた。徳永先生は、今年のらいふすてーじ4月号「ACADE見IC」に登場してくださっている。



京大生を一言で表すと…「真面目すぎて迫力がない」

はみだし
すてーじ

観光客が、「烏丸丸太町」の標示を「からす・まるまるふとるまち」と読んでいた。

(人環・職 まほろば)

※データの見方

項目 ▶ 全体の平均値
(5/4/3/2/1とそれぞれ答えた人数)

マイペースだ ▶ 4.0
(34/41/22/3/1)

変わっている ▶ 4.3
(45/43/10/2/0)

マニアックだ ▶ 4.2
(42/42/11/2/3)

世間知らずだ ▶ 3.8
(25/39/26/9/2)

頑固だ ▶ 3.7
(28/31/30/9/2)

真面目だ ▶ 3.1
(11/28/34/16/11)

おもしろい ▶ 3.1
(11/23/40/17/9)

しっかりした夢を持っている ▶ 2.9
(6/18/45/19/11)

明るい ▶ 2.6
(4/7/46/29/14)

人間ができている ▶ 2.5
(2/12/39/24/22)



とかく特殊性が強調されがちな、京大生の性格。アンケート結果もその通りのものになった。質問2の回答にも「**くせがある人が多い、個性的**」「**個性を追求する人が世間一般よりは多い**」などがあった。注目の「真面目だ」についてはやや高めの評価と言えようか。質問2の回答を見ても「**良くも悪くも真面目**」「**実は真面目な人が多い**」といった指摘がある。また、「世間知らずで、暗くて、人間ができていない」というように、人間性についてかなりネガティブな結果が出たのも特徴的だ。

さて、二人の先生方はどう見ているのだろうか。

大澤先生の見解



結果を見ると、基本的には世間的なイメージと一致してるかなって感じはありますね。マイペースだとか、個性的だとか、マニアックだとか、そういうのはやっぱり京大生の伝統的なイメージですよ。ある種の特殊技能的な個性が強いって言う、そういうイメージを自分たちに持ってますね。割合正確な自己認知じゃないですか。

でも昔に比べると、普通になってしまっている。僕らの学生時代の頃のイメージだと、京大を受ける人は、ちょっと反体制的な人が多いというイメージがあったんです。東大受けるのと京大受けるのが同じぐらいの難しさだとすれば、わざわざ京大受けるっていうのは、「阪神的精神」というか、「メインストリートから外れててえらいんだぞ」という気持ちがあって、もちろん今もあると思うんですけど昔の方が強かったですね。メインストリートとそれに対するアンチっていうのは、昔の方がメリハリがきいてましたからね。今は何がアンチかはっきりしないような時代ですから、難しいとは言えますね。

今の京大生は、内面的な、おとなしいマイペース。もっと攻撃的になってもいい気がするんだよね。自信持ってもいいと思います。

はみだし
すてーじ

選挙カーにはねられそうになった。まったく、これだから日本の政治家は…。勘弁してください。

(法・1 意志という名の道)

京大生の 性格

徳永先生の見解



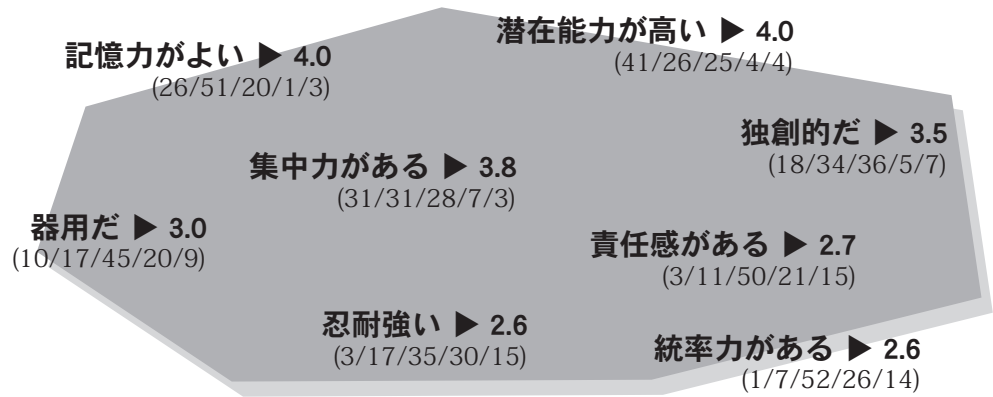
やっぱり真面目だよなあ。おとなしいというか受け身すぎるといふか。ハメを外しにくい要素があるんじゃないかなあ。

僕たちの時代はやんちゃな子が多かった。例えば僕の体験談ですが、「徳永、いい物が落ちてたから拾いに行こう」と夜中の二時ごろ友人がやってきた。何が落ちてるんだろうと見に行ったら、彼が指さしたのはバス停のコカコーラのベンチ。私がだめだよ、と言うと、「常識的なことを言うな、面白くない。真面目だけではつまらん、もっと伸び伸びやろうぜ」と言うわけです。これは時効だから言えることですが、僕らの時代にはこういった大胆なことをする人が多かった。

今の京大生は、真面目だからこそ自分を枠にはめて小さくなくなってしまっている。一度枠を崩すという、その気迫。このままじゃつまらん人間になるというのなら、もっと遊んで世界を広げていいと思います。ちっぽけにまとまる必要はどこにもない、そう思います。

それから、明るく楽天的になれないというのはよく勉強した証拠だと思えます。単に明るいというのはバカみたいだと思ってる場所があるんじゃないかなあ。京大生に限らず、突っ張ってしまったり、感情の起伏が激しいのはこの世代の特徴ではないでしょうか。

京大生の能力



厳しい入学試験を通り抜けてきただけに、基本的なアタマの能力値はかなり高いと評価しているようだ。しかし、その能力の使い方に対する批判が集中した。質問2に対する「やればできる人は多いが、しない」「能力はあるのに、間違った方向に発揮する」などの回答がそれだ。それから、「責任感がある」「統率力がある」などの評価がやや低いのが気かりである。二人の先生方も、京大生の能力に、それぞれに物足りなさを感じておられるようだ。貴重なアドバイスもくださった。

大澤先生の見解



京大生は能力はあるんだけど、あまりコツコツ型でないのは確かだね。それから、集団行動には向いてないって思ってるのがわかるよね。リーダーシップにとってみんなの世話焼くってタイプは比較的少なく、俺は勝手にやる、っていうタイプの人がやや多いかもしれませんね。

ここからは皆さんへのメッセージなんですが、京大卒というとやはり高学歴です。だけど皆さん、学歴は能力の証だと思ってるかもしれないけど、本当に能力があれば学歴なんていらんんですよ。自分にあまり能力がない場合でも、京大だって言うと、なんとなくみんなが信用してくれる。でも、本当にめちゃくちゃ能力があれば、京大だとかそんなの関係なくなりますからね。現に皆さんこれから社会に出るとわかるけど、本当にいい仕事をしようとしたときにはね、京大で習ったようなことだけじゃ、最低限の水準を確保できるというだけなんですよ。なんかやろうとしたら、いつの間にか身につけた能力、何とも形容し難い独自の能力、そういうもので勝負するしかないんです。

そういった社会に出て役立つ能力ってのは、大学の勉強なんかも含めて、総合的に獲得していかなければならないんです。自分の仕事とかものの見方、もっと広く言えば生き方とかね、そういうのに深みを与えていくような勉強っていうのは、ただ授業を聞いてるだけでは甘いんですね。京大生は比較的自分の世界を持っていて、自分なりにやってるっていうふうには僕はずっと思ってたんだけど、だんだん「ただの勉強できる子」みたいになってきてる気はしますね。

徳永先生の見解



この結果を見ると責任感や統率力に対する自己評価がずいぶん低いですけど、そうなのかなあ。もし今そういう風に見えていても、実際社会人になってリーダーを任されたら急に変化します。リーダーにふさわしいように自分自身を作っていきますから。京大卒でリーダーをやってる人は多いですよ。

むしろ独創性の方が最近弱くなっていると思います。問題意識を立てて、自分でクリエイティブに何かをするという要素です。もちろん優秀な方はいらっしゃるんですが、そういうずば抜けたものを持っている人は少なくなってきました。教官が話したことをまとめる力はすごくあっても、話したことを批判して、同時に「私はこうだ」と打ち出す、そういう力は弱くなっていると感じます。

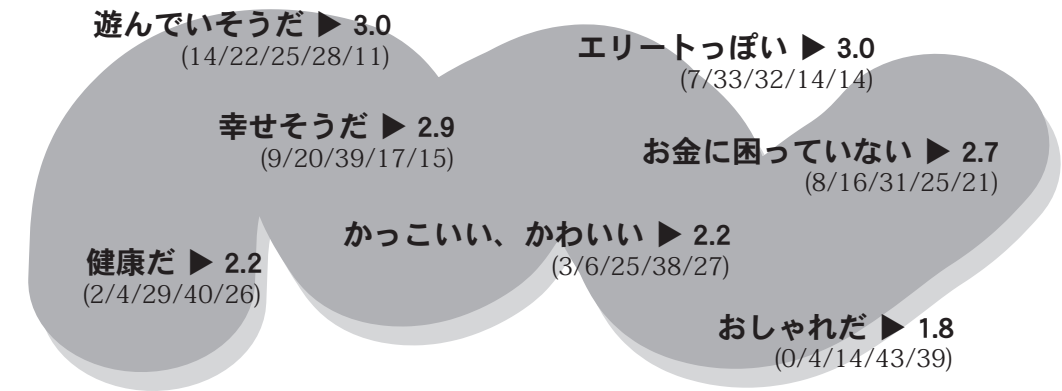
やっぱり、京大生になるために、与えられたものをどんどん吸収していかざるを得ない、「受身の学習」が多かったことの弊害でしょうねえ。それにパソコン、携帯電話が普及したりしてメディアが変わってきてるでしょう。文明が変質して、本を読まなくなった。簡単に情報が手に入るんで、いったん考えたり苦労したりしなくなって、自分で打ち出す力ってのが弱くなっているんじゃないですかねえ。

京大生に身につけてほしいのはそういった提案力、それから対話的な能力です。というのは、ただ話を聞くだけでなく、相手の話を、相手の立場に立って受け入れるということ。その上で、相手にきちんと自分の言葉を届かせる力。正真正銘のコミュニケーション能力です。リーダーになる人にはどうしても必要になってきますからね。

はみだし
すてーじ

たけや〜 さおだけ〜 っていうのよく聞こえてきますが、それに答える「はいはい、お兄さん、さおだけ一本ちょうだいな」というような返事は今まで一回も聞いたことありません。誰か今までに、さおだけを買っている人見たことありますか？（農・院 あつあげくん）
⇒あれはある種の路上ライブのようなものだと考えていいんじゃないでしょうか。（生で歌ってほしい編）

京大生の外面



生活面については、「不健康に、ややお金に困りながら」生活している、といういかにも大学生らしい結果が出た。そして何より目を引くのが「おしゃれだ」の数値の低さ。質問2の回答を見ても、「格好を気にしなさすぎ」という手厳しい意見がちらほら。かと思いきや、「こぎれい」「あまり凝っていないところがいい」「最近是他大生にも負けずおしゃれになってきている」という、ルックスを評価する意見も多い。「人によって差が激しすぎる」とも言えるだろう。これらの意見に、両先生も賛成のようだ。

大澤先生の見解



外見については、意外に自己イメージが低いというのにちょっと驚きましたねえ。そこまで卑下しなくてもいいんじゃないかな。僕の印象だと、昔に比べれば随分マシになっているし、他の国立大学と比べて、そんなにひどいということはないんじゃないかなあ。概して京大に限らず全般的に、みんなこぎれいになってますよね。育ちがよさそうな感じっていうか。

でもおしゃれしてる人としてない人の差が激しい、っていうのはうなずけますね。おしゃれしなくても許されるってのはちょっとあるでしょうね。それに関してだけど、昔、勉強の成績とそのおしゃれ度というのはほぼ逆相関の傾向があったんですよ。かなり長い間、特に女性についてはね。でも、だんだん最近はそうでもなくなってきた、才色兼備な人も出てきた。今、伝統的タイプ、つまり外見は苦手な分を学力で補うタイプと、そういうコンプレックスなしに両方できるタイプが2種類いてさ、その両極に分かれちゃってるのかもしれないよね。



あなた自身がどんな京大生になるか。
それは、あなた次第です。

京大生大解剖…完



はみだし
すてーじ

宝塚ファミリーランドが閉園してしまっってサミシイ。そして、なぜ洛西口駅はオープンしたのだろう。⇒おけいはんの陰謀が絡んでいるのでしょうか。

（文・2 うるうる）
（てきと〜な編）